

令和3年度 南部地区子ども支援 net 議事録

日 時：令和4年1月14日（金） 13:25 ～ 16:00

場 所：ZOOM

参加者：34名：チャレンジサポート奄美、にこびあ、のぞみ園、ここ園、愛かな、聖隷かがやき、のぞみ園（相談支援）、相談支援センターしゃきょう、高丘保育所、久志小中学校、田検小学校、田検中学校、名柄小中学校、阿室中学校、阿木名小中学校、篠川小学校、奄美病院、鹿児島県子ども総合療育センター、奄美市福祉政策課、宇検村保健福祉課、瀬戸内町保健福祉課、鹿児島大（高橋氏）、ぴあリンク奄美（オブザーバーとして瀬戸内町議含む）



1. 開会あいさつ

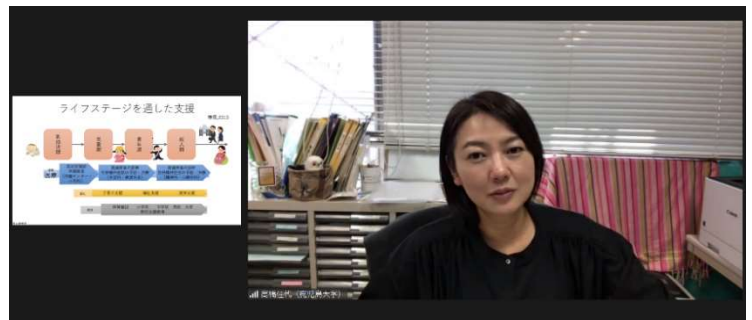
宇検村保健福祉課 保岡 力人 課長（代読）

2. ミニ研修

「発達年齢に応じた支援」

鹿児島大学大学院 臨床心理研究科

准教授 高橋 佳代 氏



【質疑応答】

○質問 1

・「子ども一人ひとりの個性を大切に（その子らしさを認める）」ということと、「学校教育の中で今よりさらに成長を促すように（集団生活を行える）」こととのせめぎあいで、葛藤がある。どのように考えればよいのか？

○回答

- ・その子が「何に困っているか」を考えることが大切。例えば、言いたいことがあるがうまく言葉が出ず、手が出てしまうなど行動がでてしまう、子どもの場合は、最初の一步は「言いたいことを何らかの方法で伝えられるようにすること」。
- ・専門職との面談や、周囲の大人が代弁することから始め、色々な人の協力や促しにより徐々に成長していくことが大切。
- ・言葉がうまく出なくても、「表情」や「文字」「絵を書くこと」で表すなど、言葉以外の表現が得意であればそれを伸ばすことも大切。

○質問 2

・その子の能力なのか、発達障害なのか、親の育て方の問題なのかの判断はどうやっているのか？

○回答

- ・育て方で、発達障害にはならないが、周囲の人のかわり方は強く影響する。（子どもの育ちが変わっていく。）
- ・「愛着」とも絡むことだが、どこからどこまでが、もともと持っている得意不得意の部分で、どこからが周りの影響かの線引きは難しい。ただ、周囲が変わると子どもも変わる。

5. グループワーク

「奄美南部部での障がい児やその家族を支える人たちの連携について」

【現状について】

○南部地区での療育及び支援の現状について

- ・療育関係の事業所が1か所しかないため、通所につがっていない子ども多い。
- ・学校でも、放課後支援などは行えていない。
- ・障がいや、子どもの困り感については、学校内で職員が協力し、なんとか対応している状況。
- ・療育施設がない宇検村での療育に関してのフォローは、親子教室を実施している。（距離の問題などがありなかなか頻繁に通うことは難しい。）⇒奄美北部（笠利地区）にも療育施設がない。同じような課題がある。
- ・療育施設はないが、保育士は人数的にはそろっている。
- ・児童発達支援を利用しているお子さんは、事業所・保育所・保護者との間で共通の連絡帳を利用し、連携をとっている。
- ・連携として、スクールソーシャルワーカーや養護学校、保健師との情報交換を定期的に行っている。

○地域機関の連携について

- ・小学校から中学校に変わる時に、関係する機関の連携が必要。

○地域の障がい理解について

- ・保護者や祖父母などが、療育を利用に対して他人の目を気にして躊躇するということが多い。
- ・小さな地域なので、他人の目が気になる。
- ・療育に関する情報を地域に伝え、理解を拡げる必要がある。

○専門家のアプローチ

- ・地域おこし協力隊として、言語聴覚士が来ている為、学校や保育所での支援に協力してもらっている。
- ・専門職から見た地域課題として、「生活状況の違い」や「療育と保育の違い」などが周知されていないと感ずることがある。
- ・県からの専門家の派遣が、コロナの状況で、難しくなっている。地域で専門家を育てる必要がある。（発達検査等対応できる人材の育成）
- ・現場で「子どもが何に困っているのか」ということを考えるとき、「親の思い」と「教員の思い」「療育の支援者の思い」がずれることがある。教育現場や保護者は、本人の特性よりも、要求の水準が上がってしまうこともある。（そういう時に専門家などの第3者が入って客観的に、子どもさんの現状を示すことができればよい。）
- ・小さな地域では、専門家がいたとしても、本音で話しにくいというのが難しさ。（名瀬に相談に行こうと思っても、どこに専門家がいてかわからない。）

○相談先の情報

- ・南部地区の子どもに関する相談の窓口がわからないとの意見が学校関係から多く出た。

【解決方法及び対応として】

- ・今あるものを活用して、行政と連携をとって支援していくのがよい。
- ・課題を前向きにとらえてはどうか。（島の印象として、社会資源やマンパワーがそろっていると感ずる）
- ・他県などでの取り組みなども参考にしながら、今あるメリットを活用していきたい。
- ・チャレンジサポート奄美（県の療育等支援事業を受託）や、ぴあリンク奄美に相談していただけたら、適切な支援につなぐことができる。